

社会や世界を見て、現実の世の中を学ぼう

校長 西村 伸二

Yaa! 杉総生の皆さん。元気にしていますか。学校を再開してからもうすぐ一か月が過ぎようとしています。マスクの着用、手洗いの励行、三密を避けるなど、「新しい日常」を確立せねばなりません。皆さんはいかがですか。

さて、世界中がコロナ禍にあるこの機会に、現実の世の中がどんな仕組みになっているのか、どんな影響が出るのか、この後、世界がどう立ち直っていくのかなど、学校で学ぶこと以外に、世の中の様々なことを学んでほしい。

数年前から、教育の場では次のようなことが言われています。それは、『今の子供たちが成人する頃には、グローバル化や技術革新などにより、予測困難な時代を迎える。そんな時代に必要なものは、

①実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」③学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性など』ということです。皆さんは、日々の授業をはじめ、課題研究、学校行事や部活動などで、これらの力を養ってきました。まだ十分に身に付いているとは言えない段階なのだと思うのですが、想定しているものとは全く違う形で、世の中が予測困難な時代となってきました。今年度は、学校内外の様々なことが、予定どおりには行われないうことが多く出てくると思います。予定外のことに対応することはとても疲れますが、ここが我慢のしどころです。

皆さんに二つお願いがあります。

一つ目、新型コロナウイルスやその他のことで、不安や心配、ストレスに感じるものがあつたら、気軽に担任の先生、保健室の先生、話しやすい先生、スクールカウンセラーや信頼できる大人に話をしてください。アドバイスですが、他の人に親切にしたり、他人のことを思いやったり、優しい気持ちをもつと、自分の不安やストレスが和らぐことがありますよ。

二つ目は、新型コロナウイルスに関連することで、他の人をからかったり、差別のような言動を取ることが、一切許されないので承知しておいてください。

最後に、皆さんに贈る言葉。

3月10日、ヨーロッパで最初に外出規制措置をとった、イタリアのジュゼッペ・コンテ首相の言葉。

「明日、抱きしめ合えるように今日は離れていよう。明日、もっと走れるように、今日は立ち止まっていよう。」

